

Quick調査レポート 「乳がん患者の オンラインでのセカンドオピニオンについての調査」

2022年5月

この調査について

- このたび当社では、乳腺外科の医師に対して、乳がん患者に対するオンラインでのセカンドオピニオンについての聴取を実施しました。COVID-19による影響下で、医師がオンラインでのセカンドオピニオンについて持つ印象や今後の意向をご報告します。

(株式会社インテージヘルスケア Quick Survey室)

● 調査結果サマリーと提言

- 本調査に回答した乳がん患者に対してセカンドオピニオンを提供したことのある乳腺外科医のうち、（現勤務施設あるいは直近でセカンドオピニオンを提供した勤務施設で）オンラインでの提供経験のある医師は11%に留まった。
- 今後回答者自身が乳がん患者に対してオンラインでセカンドオピニオンを実施することへの意向では、「積極的に実施したいと思わない」～「あまり積極的に実施したいと思わない」と回答した医師が35%、「積極的に実施したいと思う」～「やや積極的に実施したいと思う」と回答した医師が37%で、同程度となっている。一定の割合で消極的な医師がいることがわかる。
 - その理由としては「信頼できる関係性をオンラインでは築きにくいと思うから（49%）」という回答が最も多かった。
- 「オンラインでのセカンドオピニオンを利用・導入するために必要なこと」の自由記入では、「診療報酬」「施設間のオンラインでの情報共有」「専門スタッフの配置」などの環境的な要因の他、「セカンドオピニオンの認知度向上」「セカンドオピニオンを受ける際のルール（検査は行わないこと、自費診療であること、転院希望での受診ではないことなど）の理解」など、患者側の認識の向上を希望する意見もあった。
- またシステムの「セキュリティの高さ」や「使いやすさ」など、医師がオンラインでセカンドオピニオンを提供する際のシステムへの不安やサービス向上を求める声もあり、改善が望まれている。
- さらに「オンラインサービス」の認知・受容度の高まりが必要という意見も回答されており、オンラインを介した医療の提供における不安が依然としてあることが示唆されている。

調査概要

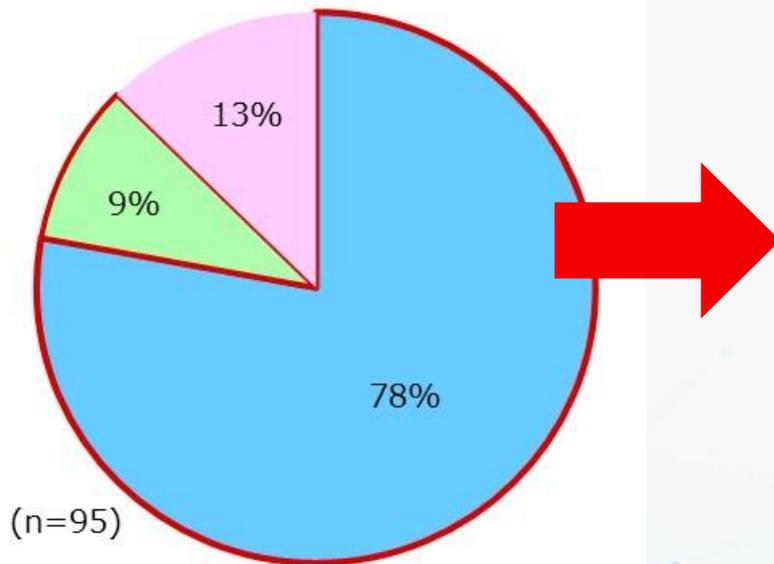
調査主体	株式会社インテージヘルスケア Quick Survey室
調査手法	インターネット調査（TenQuick使用）
調査地域	全国
調査実施時期	2021年12月16～22日
調査者対象	<ul style="list-style-type: none">➤ プラメド医師パネル➤ 最近1年間で診断した乳がん患者が30人以上/年である➤ 乳腺外科に勤務する医師である
サンプル数	<ul style="list-style-type: none">➤ 95s<ul style="list-style-type: none">✓ セカンドオピニオンの提供経験あり：83s（87%）✓ セカンドオピニオンの提供経験なし：12s（13%）

結果詳細

乳がん患者に対するセカンドオピニオンの提供経験とその方法

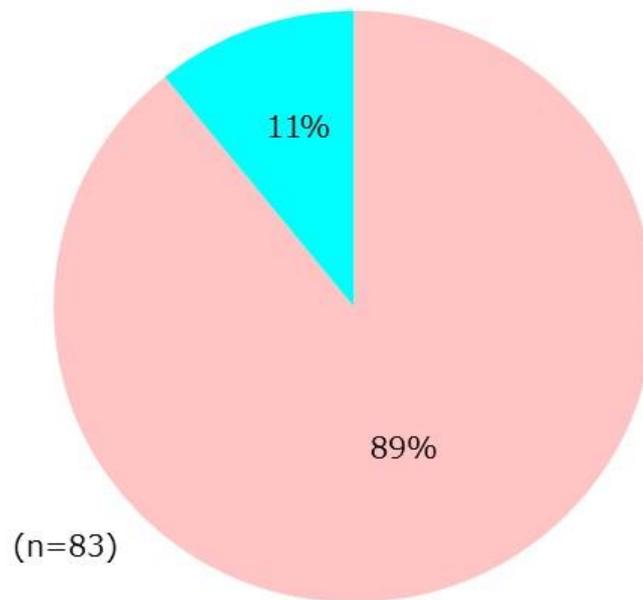
乳がんでのセカンドオピニオンのこれまでの提供経験

■ 現施設で経験あり ■ 他施設で経験あり ■ 経験なし



乳がんでのセカンドオピニオンの提供方法

■ 対面のみ ■ オンラインを含む方法



Q1：乳がん患者さんの診断・治療に対する、これまでの先生のセカンドオピニオンの提供経験の有無をお知らせください。

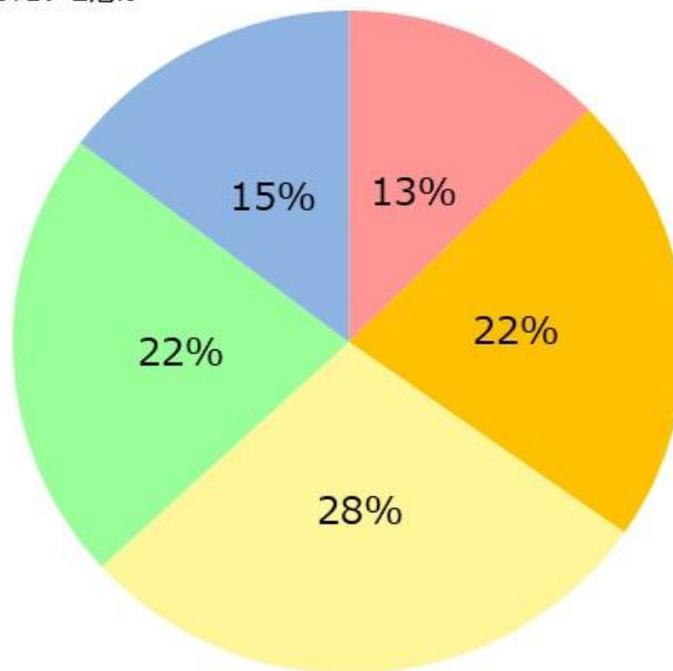
※乳がん患者へのセカンドオピニオン提供経験ありの医師に聴取

Q2：乳がん患者さんに対して、先生ご自身がセカンドオピニオンの提供を担当された現在の主勤務施設での提供方法としてあてはまるものをお知らせください。Q3：先生は現在の主勤務施設とは異なる施設でセカンドオピニオンの提供経験があると回答されました。乳がん患者さんに対して、先生ご自身がセカンドオピニオンの提供を担当された直近の勤務施設での提供方法としてあてはまるものをお知らせください。

乳がん患者への 今後のオンラインでのセカンドオピニオンの提供について

自身の今後の実施意向

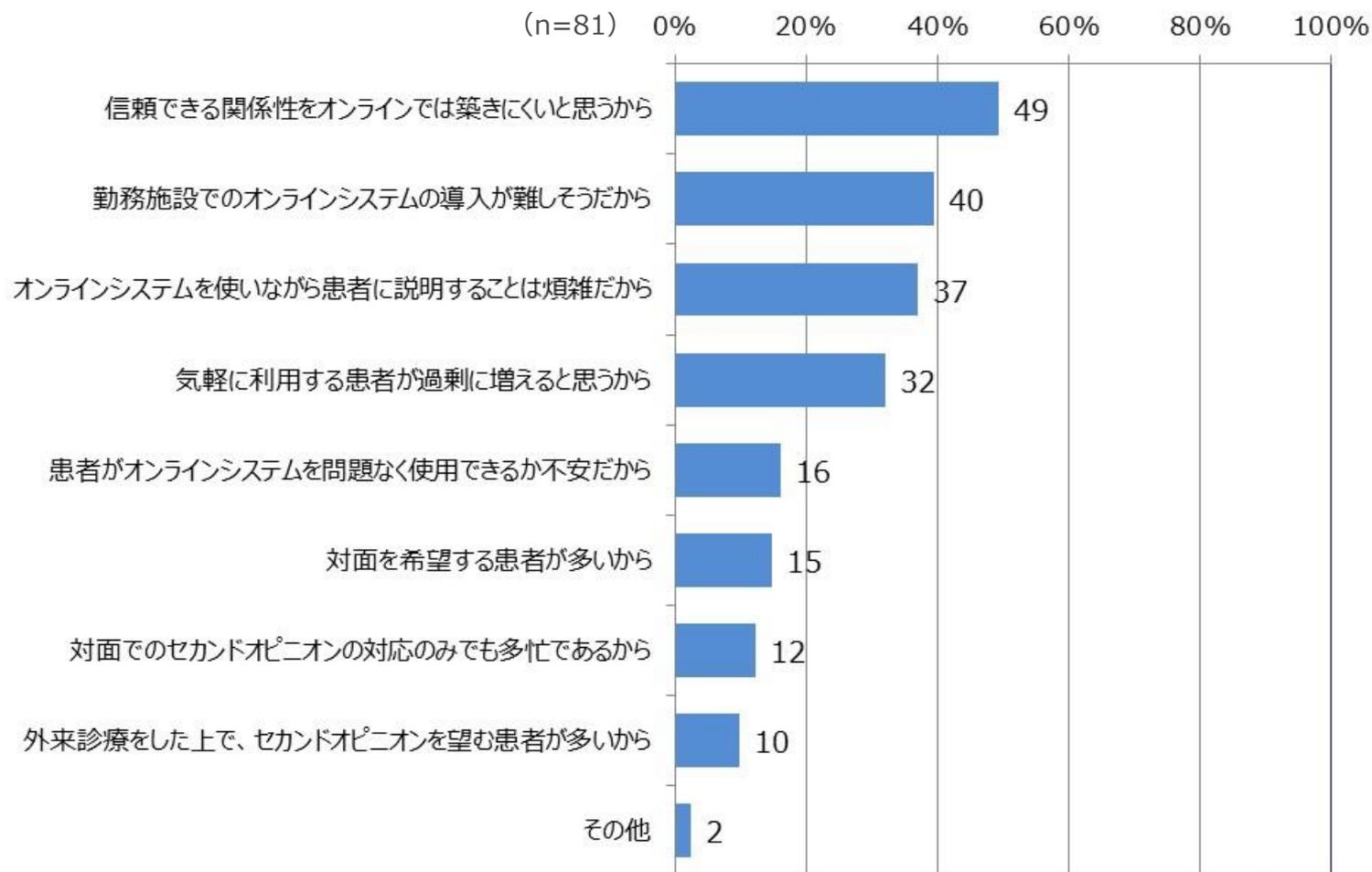
- 積極的に実施したいとは思わない
- あまり積極的に実施したいとは思わない
- どちらともいえない
- やや積極的に実施したいと思う
- 積極的に実施したいと思う



(n=95)

Q9：乳がん患者さんに対するオンラインでのセカンドオピニオンの提供について、今後の先生ご自身の意向をお知らせください。

乳がん患者へのオンラインでのセカンドオピニオンについて 今後「積極的に実施したいと思う」とは回答しなかった理由



※今後、乳がん患者へのオンラインでのセカンドオピニオンについて「積極的に実施したいと思う」**以外**を回答した医師に聴取

Q10：乳がん患者さんに対するオンラインでのセカンドオピニオン提供について、ご自身が「積極的に実施したい」とは思わない理由をすべてお知らせください。

乳がん患者へのオンラインでのセカンドオピニオンを 利用・導入しやすくするには？（※自由回答抜粋）

診療報酬の設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 報酬の明確化<国公立病院、オンライン経験あり> ● 自由診療の費用の引き上げ<大学病院>
施設間でオンラインでの情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインで患者の画像データが容易に確認できるシステムが構築されること<国公立病院> ● 電子カルテが共有されている施設を希望<診療所> ● 病院間での情報提供がオンラインでできること（画像をふくむ）<一般病院>
施設の協力体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院が必要と考えてシステム導入を行うこと<国公立病院>
専門スタッフの配置	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン接続や、時間などシステムの管理をきちんとしてくれる人がいる<一般病院> ● オンライン専門外来をたちあげること<一般病院>
システムのセキュリティの高さと導入のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティの確保<大学病院、オンライン経験あり> ● セキュリティの強化や導入のしやすさ<一般病院> ● 設備投資の簡易化<一般病院>
システムの使いやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ● きちんと料金支払いのシステムがあること。簡便な操作<大学病院、オンライン経験あり> ● 絵や図を書いて説明すること<一般病院> ● 一緒に画像等供覧できる<大学病院> ● 画像解像度、音声の確保<一般病院>
患者側のルールの順守	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間制限をしっかりとる<国公立病院> ● 事前に聞きたいことを患者自身がメールで伝えてくれる<大学病院>
セカンドオピニオン自体の周知の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ● セカンドオピニオンについての理解(検査なし、自費、転院希望での受診ではないことなど)がもっと進むこと<診療所>
オンラインサービスの認知度・受容度の高まり	<ul style="list-style-type: none"> ● オンラインでのセカンドオピニオンが多くの方々に周知されることが最低限<国公立病院> ● オンラインシステムに社会全体が慣れること。受け入れられること<大学病院>

Q11：どのようなことがあれば、先生方にとって、オンラインでのセカンドオピニオンのシステムを利用あるいは導入しやすくなると思われますか。
先生のお考えをお知らせください。

Healthier Decisions

我々は情報に命を与え、医療を楽しむ人、医療を提供する人、
健康を願うすべての人々が納得の選択をするための力となります

 **intage** 株式会社インテージヘルスケア

「TenQuick」に関するお問い合わせ・ご連絡先

株式会社インテージヘルスケア
QuickSurvey室

[本社] 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ13階
TEL: 03-5295-1655
Email: ant-tenquick@intage.com